

## 「今後の県立高校に関する地域検討会議（第4回）」記録要旨【胆江ブロック】

平成28年1月19日（火）

奥州市役所江刺総合支所 4階 大会議室

### 【小沢 奥州市長】

- ・ 水沢農業高校の志願者は少ないが、県内の農業高校を考えると、県の産業として1次産業に目を向けるような、戦略的な考えも必要ではないか。3学級を前提として学校の施設を整備するものと2学級として整備するものでは結集される力が変わるのではないかと危惧している。
- ・ 専門高校は、生きる力を身につけ、就職、進学において自己実現できる学校であることのアピールが少ないと感じている。
- ・ 普通高校では国立大学合格を重視した指導ばかりで、私立大学や特色ある学校への指導体制が弱いように感じている。中学生へ高校の特色や魅力を伝える部分が欠落しているように思う。
- ・ 水沢農業高校、水沢工業高校、前沢高校を1学級減することで、今まで持ち味としてあった学校の特色が減ることがあってはならない。再編までに、これまでの特色をどのように充実させるか、その方向性を示し、どのように実行していくかを具体的に示すことで理解を得られるのではないかと考えている。

### 【小野寺 金ヶ崎町 副町長】

- ・ 今回の再編案では、胆江ブロックの全ての高校が存続し、また全体でも市町村に高校が無くなる地域も無いため安心した。地域創生を考えると、このような配慮が必要であり再編案としてよろしいのではないかと考えている。
- ・ 生徒を「人財」と記載し、財産と捉えるスタンスは非常に良いと思うが、それを念頭に入れた再編計画であれば非常に賛成できる。
- ・ 地域振興や後継者育成という視点を踏まえ、将来の岩手県を支える人材を育てていくことを強く認識し、今後の学校運営につなげてほしい。
- ・ 1学年4～6学級が適正規模ということであるが、小規模校として存続する学校がある。小規模校のデメリットが挙げられているが、デメリットへの対応や解決策としてどのようなことを考えているのか。
- ・ 産業振興を考えると地域の企業からの意見は重要である。再編案では専門高校の学科改編にあたってどのような配慮がされているのか。
- ・ 胆江ブロックには私立高校があるが、再編案では県立高校以外の学校に対し、どのような整理をしたのか。

### 【千葉 金ヶ崎町農林水産関係者代表】

- ・ 高校再編では、数字のみで学校数、学級数を考えれば良いというものではなく、様々な問題が含まれていると感じている。
- ・ 農業人口が減ると機械化が進み、農業関係者もグローバル化の中では経済面も勉強していかなければならないという時代になっていくと思う。
- ・ 高校の存在が今までとは違う存在になるのではないかと感じている。高校に至るまでの義務教育の段階でも、高校に対する考え方、教育の在り方も考えていく必要があるのではないかと。

### 【高森 奥州商工会議所 事務局長】

- ・ 生徒減によって学級減が進むため、この再編案の通りではないかと感じる。 (次頁に続く)

- ・ 地元経済を考えると地元の子供が地元に残り、地元で仕事をしていくことが大切であり、難しいとは思いますがそのようになってほしいと思う。
- ・ 高卒で就職した生徒のコミュニケーション能力や基礎学力が不足している。合わせて協調性についても教育してほしいと感じている。大学に進学してもいずれ就職するので、専門高校だけではなく普通高校でもそのような教育が必要であると思う。
- ・ 大学進学を目指して普通高校へ入学した生徒が、進路を変更し就職を目指したいと考えた際に、専門高校へ容易に転校することができれば良いと思っている。そのような普通高校から専門高校、またはその逆の転校は可能なのか。

**【佐藤 奥州市PTA連合会 会長】**

- ・ 胆江ブロックの現状を考えると今回の再編案は妥当だと思う。胆江ブロックでは5年後に3学級減となるが、子ども達にとって分かりやすい魅力ある学校にしてほしい。
- ・ 専門高校では関東方面の就職が多い。もっと地元に残るような指導をお願いしたい。

**【菅原 金ヶ崎町立金ヶ崎中学校PTA 副会長】**

- ・ 地域の保護者からは地元の近隣の高校へ通わせたいという話があり、生徒数が減っても地域の高校が存続することは良いと思う。
- ・ 高校を偏差値等、学力面から見がちであるが、学級減があっても入試や学校のレベルは維持されるのか、保護者としては不安である。
- ・ 再編計画案では生徒減のため学級減とするようであるが、今の高校入試でも不合格になる生徒もいる。また、最初から私立高校のみを受検する生徒も多いという現状や、保護者の考えが再編計画に反映されることを希望する。
- ・ 働いている生徒や、特別な支援が必要な生徒の保護者の経済状態は厳しいというニュースもあるので、単位制等の高校についても再編案に記載があったので有り難いと感じている。
- ・ 岩手県は県土が広く、通学が困難な生徒が多いため、校舎制については賛成である。
- ・ 統合になった場合、それぞれの学科は存続するのか。20人以下の場合は翌年度から募集停止とあるが、募集停止となった場合、その学科を受検しようとしていた生徒はどのようにしたら良いか。県教委として、県内に最低1学科は残すというような対策を考えているのか。

**【田面木 奥州市教育委員会 教育長】**

- ・ 今回の再編計画案は個人的には妥当であると思う。
- ・ 再編計画案では「人財」と表記しているが、生徒をどのように捉えているのか意味が分からないところがある。自立した社会人を育成するという目的は良いが、そのために高校教育としてどのようにしていくのか分からない。
- ・ 岩手県の大学進学率は全国より低く、就職率は全国より高い。離職率が4割であることが問題である。このような状況で岩手を担う人材を育成していると言えるのか。高校再編では、この状況とどう関わるかを考えていかなければならないと思う。
- ・ 生徒減のみを考えた学級減ではなく、医師や福祉関係の人材として必要な人数や、地域産業で必要となる人数について考慮した再編計画になっているのか。
- ・ 生徒が岩手に魅力を感じ、地元に残る、または戻ってくるようになってほしい。魅力ある岩手を作るには高校再編だけではないが、そのようなところを考えた再編計画にしてほしい。
- ・ 総合選択制の学校の中では進路の状況も見据え、学系の構成等の改編も検討するとあるが、今後そのような改編はあり得るのか。

(次頁に続く)

- ・通学支援について、高校への通学では保護者の送迎が多いため、バスを運営している団体への補助等ではなく総合的に考えなければならないのではないかと。

#### 【新田 金ヶ崎町教育委員会 教育長】

- ・これまでの3回の地域検討会議を経て、どのような再編案が示されるか不安であり楽しみでもあったが、これからの生徒減を踏まえての再編案であり、各ブロックで出された意見等がかなり反映されていると思う。このような現状の中ではこの計画案でやむを得ないと考え、賛成する。
- ・胆江ブロックでは3校が学級減の対象になっており、水沢農業高校と水沢工業高校では学科改編になるが、国のこれからの方向性や、産業界がどのような人材を必要としているか等を参考にしてほしい。
- ・学科等については生徒の希望も大事であるが、卒業後の出口を考える必要がある。また、岩手県ではどのような人材を育て、岩手のこれからの担っていくかということも高校再編や高校教育の中で考えていただきたい。これは高校のみならず、小中学校や社会全体で考えなければならない問題である。高校は社会に出る一手手前であるので、その辺りも考えていただきたい。
- ・後期計画では更に生徒減が進み、再編や統合は避けて通れないと思う。地域にとって学校は活性化の源となるものであり、今回の再編案は1学級校も特例と存続しているが後期でも同様に考えてほしい。
- ・郊外に大規模店ができると従来の商店街が廃れていく現状があり、地域の活性化としてはいかがなものかと考えることがある。高校においても同様で、大規模校では部活動等は充実するが、高校は地域を担う面もあるので、そのようなことも考慮して再編計画を考えていただきたい。

#### 【佐々木 胆江地区中学校長会 会長】

- ・個人的には生徒減を考えると、再編案の胆江ブロックでの3学級減はやむを得ないと考えている。中学校長会でも同様な意見が多かった。
- ・学級減になると現在よりも小規模な学校になるが、小規模校でのメリットを生かすような特色ある学校づくりを目指し、その成果を生徒や保護者に周知してほしい。
- ・学級減になると教員数も減るが、教育の内容や質を維持していくためにも、職員定数の柔軟な制度の改善に向けた要望等を続けていただきたい。それが難しい場合には何か代わる方策等を実施し、充実した授業等ができるようお願いしたい。
- ・後期計画の方針について、更に3、4学級減になるが胆江ブロックは全ての学科が揃っているもので、この環境をできる限り維持してほしい。
- ・前沢高校は学級減で1学級校になるが、特例校ではない。どのような理由で存続するのか。
- ・3学級減として水沢農業高校、水沢工業高校、前沢高校の3校を選んだ理由は何か。
- ・校舎制について、普通科同士の校舎制はあり得ないのか。

#### 【県教委】

- ・小規模校の課題への対応としては、教育の質を維持していくために近隣の高校との連携やICTを活用した遠隔授業の実施等も含め検討していきたい。地域、産業界との連携を進め、それぞれの学校で教育振興会等を通じながら、地域にとっての学校の位置づけを明確化しながら、地域の皆さん、生徒、保護者にプラスになるような取り組みを具体化していくことによって、小規模校の教育の質の課題を解決していけるように、と考えている。
- ・学科改編にあたって、高校は社会に出る一番近いところであるので、当然企業のニーズ等も考えながら学科の設定をしていかなければならないが、高校入試における状況等も考えなければならないところもある。  
(次頁に続く)

- ・現状では普通科志望が若干多くなってきている傾向が中学生アンケートからも分かる。働くことをイメージさせるために小中学校も含め、子ども達へのイメージづけ、保護者へもそのような仕事を理解いただくことで、普通高校以外の選択にもつながっていくと考えている。
- ・胆江ブロックでの3学級減は、専門学科と普通科のバランスを考えて提案している。
- ・再編計画の策定では、県の私学担当を通じて私学協会と生徒減にお互いがどのように対応していくのか意見交換をしながら、このような再編案を策定した。
- ・「人財」と記載しているのは、高校再編の検討を始めた平成20年の外部委員の検討の中で、生徒は宝であるという意見をいただき、造語であるが基本的方向で「人財」を使用している。宝となるような人を育てていこうということでこのような言葉を使っている。
- ・離職率について、定着の部分で課題があるが、高校教育ではインターンシップ等、キャリア教育として職業観を養っている。実際の仕事現場とのギャップを埋めきれないところがあるので、学校側でも考えていかなければならない課題であり、企業の皆さまからも積極的なアドバイス等をいただきながら進めていく必要がある。他ブロックの会議では、インターンシップの期間を長くしたり、簡単な仕事だけをさせるのではなく、大変な仕事もあることを教えていく必要があるのではないかと意見もいただいているので、そのようなことも十分考えながらやっていきたい。
- ・県として産業振興や県に必要な医師等の人材を考えなければならない面はあるが、生徒の希望を叶えることを第一に考え進めさせていただいていることを御理解いただきたい。
- ・通学支援について、前計画において統合に伴いバスを運行する市町村や保護者団体への通学補助を行い、現在も継続している。新たな再編計画に伴い統合先への公共交通機関の通学費用が大幅に増える場合、あるいは公共交通機関での通学が困難になる場合に、北海道で行っているような一定額以上の通学費や下宿費について、激減緩和のために一定期間の支援を検討していきたい。具体的な手法については、各地域での状況を踏まえて検討を行っていく。計画策定後の来年度中には、具体的な支援策を決定していきたい。
- ・地域の学校を存続していくためには、地域の皆さんからの支援や理解が不可欠であり、連携の部分が重要視されていくと考えている。
- ・震災前までは2学級校を最低規模としてきたが、震災を経る中で1学級校が現在4校存在している。そのような学校への配慮として統合基準を示しているが、2学級を1学級にする際に直ちに統合するのでは理解が得られないと考え、計画案では前期の中で1学級校になる学校が数校ある。1学級校になった後の前沢高校の在り方については、前期計画期間中の定員充足状況等も確認した上で、後期計画の中で改めて検討していく。
- ・3校で学級減を示している理由について、胆江ブロックでの必要学級数の推移、入学者の推計等を基本としながら、生徒の選択肢をできるだけ確保してほしいとの意見を踏まえ、普通科と専門学科のバランス、中学生アンケートの志望状況等を勘案した上で、水沢農業高校、水沢工業高校、前沢高校の3校での学級減を示している。後期計画については、今回学級減にならない高校でも考えていかなければならない状況もあるが、前期ではこの3校を提案している。
- ・校舎制は基本的に本校、分校という形とは違う形で考えており、現在は普通科同士の校舎制は考えていない。小規模になった専門高校と専門高校、総合学科高校、普通高校との校舎制を提案させていただいている。
- ・地方版総合戦略と再編計画の関係について、地方版総合戦略では各市町村で仕事や子育てについて取り組まれるが、そのような取り組みによる状況を十分見極めて再編を進めていく必要があると考

(次頁に続く)

え、前期計画では学級減を中心とした対応を提案している。前期の間に地域の皆さんと連携して取り組んで行き、後期計画に向かっていこうと考えている。

#### 【県教委】

- ・ 本県での高校卒業後の進路を大まかにいうと、4割が大学進学、3割が就職、3割が専門学校進学になっている。
- ・ かつては七五三といわれ高卒就職の3年以内の離職率は5割であった。この状況を県教委としても問題視し、キャリア教育等の取り組みにより4割まで下がったものの、若干最近上がり気味にある。他ブロックでも離職率についての意見があり、課題として考えていかなければならない。
- ・ 産業界の方からの意見として、インターンシップでは仕事の良いところばかり見せ、厳しいところまで教えることができていないというものがあつた。社会の厳しさも教えなければならず、学校だけではなく、地域や産業界の力もお借りしなければならないと思っている。
- ・ キャリア教育については小中学校においても充実してきており、高校でも行っているが、その根幹をなしているのはインターンシップではなく、基礎学力の充実や基本的な生活習慣の確立であり、そのようなところから入り、インターンシップという形で現実の社会を学んでいくということになっている。
- ・ 胆江ブロックは様々な産業がある地域で、この地区内に就職する生徒が多いということであるが、各産業界からのお力をお借りできればと思っている。
- ・ 高校の場合は、普通科、商業科、工業科等様々あり、入学段階からカリキュラムが異なっている。3年間でどのようなことを学んでいくか決められているために、学年の途中から変更することは非常に難しいため、高校生の転校は簡単なことではない。しかし、昨今、弾力的に扱おうとはなってきたが、一番問われるのは転校の理由である。なぜ転校しなければならないか必然的な理由、例えば一家転住やいじめ等の問題で配慮が必要である場合等が挙げられる。さらに転校後その生徒がやっていけるかということも大事である。意欲、学力面で転校後に耐えられるかが問われる。また、定員の問題もある。入学段階で既に定員を満たしている学校においては、決して簡単ではないという状況である。このような中で学校が総合的に判断し、受け入れが可能な場合に転校を受け入れるというシステムである。これは県立から県立、普通科から商業科、その逆等があり、全てを封じているわけではなく、弾力的に扱っている。特に東日本大震災に際しては弾力的に扱って、他県、本県の異動を認めている経緯がある。しかし、現実には決して簡単ではない。

#### 【小野寺 金ヶ崎町 副町長】

- ・ これまでの高校再編において、再編後に課題となっていること等はあるのか。

#### 【県教委】

- ・ 前再編計画では、生徒減少への対応もあつたが、生徒の多様なニーズに応えられるように様々な新しいタイプの学校を導入してきた。総合学科高校や総合選択制、併設型の中高一貫教育校等多様なニーズに応えられるように作ってきたが、その多様な高校を存続させていくのが難しい程、生徒減少が進んでいる。その中で基礎・基本が改めて必要であるということで、従来からある学科でより基礎的な学力、社会性を十分身につけていけるような形を作っていかなければならず、今回の再編計画では新しい視点での打ち出しは難しかったところがある。

#### 【田面木 奥州市教育委員会 教育長】

- ・ 総合学科高校は自分で科目を選択でき当初は人気があつたが、教員の対応が大変であつたと聞いていた。目的意識を持ち、次へのステップアップを謳い総合学科ができたと捉えているが、次のステップへ進むところでもっと魅力があれば良いのではないかと。(次頁に続く)

- ・ インターンシップの受け入れ企業から生徒は挨拶もできないと言われることがあったが、今の企業の人達は生徒を大事に扱いすぎて、仕事の厳しさを教えていないところがあり、それでは良くないと思う。ある企業では、厳しくても頑張った生徒をそのまま採用するという話もあった。キャリア教育では、小中高の連携をもっと進めていかなければならないと感じている。

#### 【県教委】

- ・ 総合学科では自由に科目選択ができ、生徒に人気があった。しかし、選択した科目がその後の進路に直接つながらないこと等があり、現在は系列を設けている。
- ・ 中学生から見た総合学科を考えると、普通科から進学したい、専門学科で資格を取得し就職したい等、具体的に進む方向が選択できていない生徒にとって、高校入学後、1年生の時に進路について考える時間がある。そのために専門性は薄れる部分はあるが、進路の確保がなされている。
- ・ 東北本線沿いの専門高校がある地域の総合学科とは異なり、1学科40人の確保が難しく専門高校の設置が難しい県北沿岸地域等の総合学科は、専門学科の代わりになるようなところがあり、地域によって総合学科の在り方は変わってきている。
- ・ キャリア教育については、協力事業所を増やしていくことが必要である。また、ある地域ではインターンシップは2年生で行い、3年生の夏休みにはアルバイトターンということでアルバイトとインターンシップが一緒になった形で一週間程度働き、内定につながる例もあるとうかがっている。様々な工夫をしていかなければならないと考えている。

#### 【千葉 金ヶ崎町農林水産関係者代表】

- ・ 中学生の志望動向から学級減の3校を決めたということであるが、胆江ブロックにおいて平成32年度には半分以上が普通科になり、専門学科は8学級になる。県の様々な分野におけるリーダーや担い手の育成する視点を重視する中で、普通科を卒業した生徒が岩手に戻り産業界で活躍すると捉えているのか。
- ・ 中学生アンケートの結果も大事であるが、県としてこうあってほしいというものも取り入れながら、再編計画を考えてほしい。このままだと専門学科がどんどん減っていくというイメージがある。

#### 【県教委】

- ・ 県や地域としてこのような人材がほしいという考え方もあると思うが、入学者数を見ると水沢農業高校で学級減をせずに定員を確保するのは難しい部分がある。産業の重要性について小中学校の段階で理解し、専門学科を志願するような取り組みは必要であると考えている。
- ・ 学級減を提案しているが、学科をどのようにしていくかについてはこれから検討していくことになる。具体的にどうするかについては学校側の意見も加味しながら、学科の在り方を検討していきたい。学科改編前の学習内容も学べるような教育課程にする例がこれまで多かったので、そのような形での選択肢の確保も考えていきたい。

#### 【小沢 奥州市長】

- ・ 平成27年度における黒沢尻工業高校と水沢工業高校の合格者数の割合は1：0.8である。それに対し学級数の割合は1：0.66である。さらに再編後には1：0.5になる。誘致企業の獲得、戦略的な工業人材の輩出からすると、一定規模の学校が必要である。
- ・ 水沢工業高校は資格取得において実績があり、優秀な生徒は一部上場企業にも就職している。県教委として1学級減に対し、どのような充実策を具体的に打っていくのか。遠くから列車で通ってくるような特色、意義と意味がある高校を作らなければならない。
- ・ 水沢農業高校は2学級になるが、岩手県の主たる産業は何なのか。胆江地区では農業高校がフロン  
(次頁に続く)

ティアスクールであり、そのOBがこの地区をリードしてきた人材であることは事実である。

- ・ これからの強い農業をつくるには、農業に携わる者は会計ができ、世界情勢も見てたくさんのことを学ぶ必要がある。普通科に進み農業系大学に進学した人が本当に岩手に帰ってきてくれるのか。
- ・ 中学校卒業時点で岩手の農業に貢献したいという人材を育てるために、例えば水沢農業高校はトラクターの運転の仕方から経営、簿記、法律まで教えるというような特色、農業系の大学進学を一つの特色とする等が必要ではないか。1学級減となっても優秀な生徒を育てて、岩手に貢献できる人材を輩出する学校に内容をスケールアップしていくような考えが必要である。
- ・ 誘致企業は、働き手を確保できない、地元の人がほしいと言っている。高校の学級編制において、社会的人口減を結果的に招くような、岩手県の優秀な人材をどんどん外に出す仕組みをつくってしまっていないか。
- ・ 1学級であるが入学が難しいというような特色を持った学校、小規模校ではあるが大規模校に負けないくらいの特色ある高校をつくる等、岩手県の将来を切り開く人材を育成していくような明確な目標があるべきではないか。

#### 【田面木 奥州市教育委員会 教育長】

- ・ 平成32年度に遠野高校と遠野緑峰高校の校舎制での統合が示されているが、普通科と専門学科の統合には違和感がある。極論を言うと、水沢高校と水沢農業高校との統合もあり得るといえるのか。

#### 【県教委】

- ・ 遠野市では現在、生徒数が240人から250人であり、遠野高校が4学級、遠野緑峰高校が2学級の計6学級を維持している。平成32年度までに約1学級程度(39人)の生徒が減ること、遠野市の2校間の距離は約4kmであること、遠野緑峰高校の2学級維持が困難となること等を考え、農業科を残すために校舎制での維持を考えている。
- ・ 専門高校が1学級校になった場合、普通科目に必要な教員数を配置すると専門学科としての専門性の維持ができなくなる等の課題がある。校舎制で運営することで遠野高校の普通科教員を派遣し、遠野緑峰高校の専門性を生かしていく方法として、普通科と専門高校の統合を提案している。
- ・ 校舎制の統合のメリットとしては、遠野高校の普通科の就職希望者に対して専門高校の教員の就職指導ができること、遠野緑峰高校の農業科における進学希望者が、遠野高校の進学課外に参加できること等から進路が広がるのが考えられる。
- ・ 校舎制での統合では、宮古のような専門高校同士、久慈のような専門学科と総合学科というような様々な形を通じながら生徒の選択肢、進路の幅の拡大ということで検討している。当地区では具体的には考えていないが、後期計画では改めて考えていかなければならないと思う。

#### 【県教委】

- ・ 様々な統合の形態として学科の組合せを考えていかなければならないくらい、少子化が進んでいると認識いただきたい。

#### 【県教委】

- ・ 胆江ブロックにおいて平成32年度までに3学級減とする再編案を提案している。専門高校の学級減についての意見もいただいたところであるが、再編の方向性についてこのように進めることとして良いか。

(反対意見無し)

- ・ それではこの方向性で進めさせていただき、中身については今後検討させていただく。

(次頁に続く)

### 【県教委】

- ・ 普通科における国公立大学入試の指導重視の話があったが、県教委でそのように指導しているわけではなく、高校に入学する生徒のほとんどが国公立大学を志望しているという状況にあるということ。それに対応するため、各校では苦心しながら指導していると思う。生徒一人ひとりの可能性を生かす教育とはどうあるべきか、特色とはどうあるべきかという御提言と受け止めたところ。
- ・ 再編計画の検討会議では、ある程度高校の存続が見えてきた段階になり、次のステップとして高校教育の質の保証に論点が移ってきているように感じている。再編の原点にあるものは高校教育の質の保証であり、そこからスタートしている。少子化の時代においては地域における高校存続の意味が大きく、存続に議論の中心が行っていたが、前期計画では方向性が見え、いかに教育の質の保証するのかという論議をいただいた。大変大事なことであるので今後も様々意見をいただきたい。